

略歴書

五十田 博 (いそだ ひろし)

京都大学生存圏研究所 教授、博士 (工学)



【専攻分野】 木質構造、建築構造、耐震構造

【本会活動】

理事 (事業担当) : 2011 年 6 月～2013 年 5 月

日本地震工学会大会 : 2012 大会実行委員長

日本地震工学会大会 : 2011 大会実行副委員長

会誌編集委員会幹事 : 2006 年 10 月～2008 年 3 月

論文集編集委員会委員 : 2009 年 4 月～2013 年 3 月

会誌編集委員会委員 : 2008 年 4 月～2010 年 3 月

【略歴】

1988 年 3 月 新潟大学工学部建築学科 卒業

1990 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程 修了

1992 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程 中途退学

1992 年 4 月 信州大学工学部社会開発工学科 助手

1997 年 4 月 建設省建築研究所第三研究部 研究員 1998 年 4 月 主任研究員

2004 年 10 月 信州大学工学部建築学科 准教授 2011 年 10 月 教授

2013 年 6 月 京都大学生存圏研究所 教授 (現在に至る)

(現 : 建築研究所客員研究員、その他、日本大学理工学部建築学科非常勤講師、カリフォルニア大学サンディエゴ校在外研究員、ニューヨーク州立大学バッファロー校客員研究員などを歴任)

【受賞】

日本建築学会賞 (論文) (2011 年)

ASCE Raymond C. Reese Research Prize (2011 年) (John van de Lindt, Shiling Pei らと共同)

地球温暖化防止活動環境大臣表彰 (2015 年) (竹中工務店と共同)

耐震改修優秀建築・貢献者表彰 (2018 年) (近鉄不動産、全日本コンサルタントらと共同)

科学技術分野の文部科学大臣表彰 (2019 年) (中川貴文氏と共同)

木質材料・木質構造技術研究基金 : 第一部門賞 (杉山英男賞) (2019 年)

【委員会活動(直近の主なもの)】

日本学術会議 農学委員会林学分科会特任連携会員 2018 年 5 月～2020 年 9 月

日本建築学会 構造本委員会幹事 2017 年 4 月～2021 年 3 月

日本建築学会 災害本委員会幹事 2015 年 4 月～2021 年 3 月

日本建築学会 構造工学論文集編集小委員会委員長 2017 年 4 月～2021 年 3 月

文科省 学校施設の耐震化に係る技術的事項に関する協力者会議委員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

国交省国総研総合技術開発プロジェクト 新しい木質材料を活用した混構造建築物の設計・施工技術の開発委員会委員 2019 年 7 月～2020 年 3 月

(国研) 防災科学技術研究所 実大三次元震動破壊実験施設利用委員会委員 2018 年 4 月～2020 年 3 月

(国研) 建築研究所 長期優良住宅リフォーム推進事業評価専門委員会委員 2018 年 4 月～2020 年 3 月

京都府教育委員会 京都府文化財建造物修理専門委員会委員 2018 年 8 月～2020 年 3 月

日本建築総合試験所 建築技術性能認証委員会、木質構造性能評価委員会、建築構造性能評価委員会委員 2018 年 4～2020 年 3 月

日本建築センター 耐震診断評定委員会、木質構造審査 (評定) 委員会委員 2018 年～2020 年 3 月

建材試験センター 構造性能評価委員会委員長代理、評価員、試験員 2018 年 4 月～2020 年 3 月

ベターリビング 建築基準法に基づく指定性能評価機関評価員、木質構造評定委員会委員 2018

年 4 月～2020 年 3 月

日本建築防災協会 住宅等防災技術評価委員会委員、木造住宅耐震診断プログラム評価委員会委員長
2018 年 4 月～2020 年 3 月

日本住宅・木材技術センター CLT 設計施工マニュアル編集委員会および構造設計小委員会委員 2019
年 7 月～2020 年 3 月

木を活かす建築推進協議会 サステナブル建築物等先導事業（木造先導型）評価委員会評価委員 2019
年 5 月～2020 年 3 月

国際建築住宅産業協会 WOODRISE 2021 in Japan アドバイザリー委員 2020 年 2 月 2021 年 3 月

【著書および主要論文（最近のもの）】

篠原昌寿，五十田博：オイルダンパーを付加した木質ラーメン構造の限界耐力計算に基づく制振設計法，日本建築学会構造系論文集，日本建築学会，第 85 巻，第 769 号，355-365，2020 年 3 月

Kotaro Sumida, Hiroshi Isoda, Takuro Mori, Kei Tanaka, Solomon Tesfamariam: Experimental Seismic Response of Japanese Conventional Wooden House Using 2016 Kumamoto Earthquake Records; Journal of Performance of Constructed Facilities, 33, 2, 2019/04

Motoshi Sato, Hiroshi Isoda, Yasuhiro Araki, Takfumi Nakagawa, Naohito Kawai: A Seismic behavior and numerical model of narrow paneled cross-laminated timber building; Engineering Structures, 179, 15, 9-22, 2019/01

角田功太郎，五十田博，井上涼，森拓郎，田中圭，佐藤利昭：2016 年熊本地震から 2 年経過した益城町市街地の被災建物の現況；日本地震工学会，19, 1, 1_21-1_33，2019 年

汐満将史，境有紀，五十田博，荒木康弘，松森泰造：既存木造建物を対象とした復元力特性モデルの開発；日本建築学会構造系論文集，83, 747, 717-7261，2018 年 5 月

伊藤美瑛，大塚悠里，平石久廣，小林正人，五十田博：減衰による弾性一質点系総入力エネルギーの低減係数に関する研究；日本建築学会構造系論文集，日本建築学会，第 744 号，245-252，2018 年 2 月

佐藤基志，五十田博，荒木康弘，中川貴文，三宅辰哉：小幅パネルを対象にした CLT 構造の解析モデルの提案と精度検証；日本建築学会構造系論文集，日本建築学会，第 741 号，1719-1726，2017 年 11 月

山崎義弘，五十田博，中川貴文，荒木康弘，坂田弘安：板張り根太床構面の力学的挙動に関する研究 様々な荷重分布下における水平構面の面内せん断挙動；構造工学論文集，日本建築学会，63B, 611-619，2017 年 3 月

【所信】

日本地震工学会では、2006 年会誌編集委員会に加えていただき、その後理事となり、会員として情報、発表機会などのサービスを受ける立場から、微力ながらも運営にご協力させていただきつつ、本日を迎えました。その間、建築構造、特に自分の専門である木質構造という、いわば狭い視点から、土木、地震、機械、地盤の先生方と異文化交流し、さらに社会科学分野の方々とも情報交換の場を得て、地震防災を総合的に考える必要性を痛感しております。監事として選出いただけましたら、何よりこれまでの本会活動経験を活かしつつ、引き続き、本会らしい立ち位置の更なる確立、およびそれを進歩させるべく、職務を全うさせていただく所存であります。

さて、本会会員は、前述のように土木学会、日本建築学会、日本地震学会、日本機械学会、地盤工学会等の学協会において活動をされている方々から構成され、かつ“地震工学および地震防災”の進歩、発展にターゲットを絞っています。本会らしい立ち位置とは、各分野の協調によって問題解決をはかること、そして本会だからこそ出来る分野横断的な災害情報の提供、社会システムへの提案・提言をなすこと、と考えています。当然、それらの発信と共有は、専門内にとどまらず、広く社会に、そして、国内外へ向かうことが重要です。地震活動のない時期にはとにかく忘れがちなことが多く、地震防災という備えに対して息を抜きがちになりますが、継続した地道な活動に加えて、時代に応じた対応も必要になってきます。先進的な取り組み、これまでにない取り組みなどが評価され、継続した地道な活動は評価されにくいですが、継続を良しとする声も支援すべきと考えてもいます。

Society5.0 によって、全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことを目指すなど、社会的には情報化の更なる先へ向かっています。一方で、ツールや AI などが整備されつつある割には、せわしなく余裕のない日々を過ごされている方も多くいるようにも感じます。良いものを残しつつ実態のある効率化によって、本会の活動が円滑におこなえるよう、微力ながら協力させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。